

第1回国際東南アジア会議 (International Conference on Southeast Asia)

田村慶子 (北九州市立大学)

2005年12月12日から14日まで、マラヤ大学 (UM) 社会科学学部主催の国際東南アジア会議がマラヤ大学にて開催された。UMは周知のとおり、1905年に民間からの募金を基礎にしてシンガポールに設立されたエドワード7世医学カレッジにさかのぼる。国際東南アジア会議はUM創設100周年を記念したもので、今後は2年に一度の開催を予定しているとのことであった。

会議は、3日間ともまず講演があり、それに続いて並行した2つのセッションが隣り合う教室で行なわれるという形式であった。3日間で62の報告が行なわれたものの、参加者は会議期間を通して120人ほどであった。報告予定者62人(予定者の1人が参加をキャンセルしたために、実際に報告したのは61人)はあらかじめペーパーをメールなどで事務局に送付し、事務局はそれらを1枚のCD-Romにしてプログラムとともに参加者に配布するというやり方が取られたために、ペーパーの奪い合いなどで会場が混乱することはなく、第一回の会議にしてはかなり考えられたものであった。また、一日目の夜は、UMに近いHotel Armadaの豪華なホールで歓迎晩餐会が催され、副学長の歓迎挨拶があるなど会議開催に大学がかなり積極的であったこともうかがえた(写真は晩餐会の様子)。ただ、直前になっても会議HPにはほとんどプログラムが掲載されなかったために自分の報告が何日目にあるのかわからず、また、どのような講演が行なわれるのかわからなかった。さらに、全報告のうち18報告がマレー語でなされたために、マレー語を理解しない私を含めた何人かの参加者は報告も質疑応答でも「蚊帳の外」状態であった。報告がマレー語で行なわれるときは英語のサマリーを配布するなどの配慮があってもいいのではないかと思った。

以下、英語で行なわれた報告のなかから印象に残ったものをいくつか簡単に紹介し、また筆者の報告に対する質疑を少しだけ述べたい。

*

今回、興味を持ったセッションの1つが東南アジアのイスラムに関するものであった。Ronald Lukens-Bull(University of North-Florida)は、“Understanding Sectarian Violence in Indonesian Islam”において、モルカ諸島の異教徒間の争いの特徴をいくつか紹介し、これまで「リベラル」と考えられてきたインドネシアのムスリムをいくつかの角度から再考する必要があること、インドネシアにおいても「穏健な」ムスリムと「過激な」ムスリムの境界が曖昧になっていることを報告した。この報告に対して、「穏健な」ムスリムと「過激な」ムスリムの定義、平和的聖戦(報告者は『平和的聖戦』と題する著書を最近出版したと自己紹介で述べていた)とは何かなど多くの質問が寄せられ、フロアの関心の高さがうかがえた。

Christopher M.Joll (Universiti Kebangsaan Malaysia)“Theoretical Issues in Ethnographic Studies of Southeast Asian Muslims”は、タイのパタニでの調査を行ってきたニュージーランド人であった。彼は、ムスリム社会の分析に対するこれまでの人類学の有効性と問題点を挙げ、さらに「普通のムスリム(ordinary Muslims)」の言説が方法論として留意されるべきことを述べた。筆者は、人類学の研究の蓄積についてほとんど知識がないために、報告の大半とフロアからの質疑をよく理解できなかったが、「穏健な」もしくは「過激な」ムスリムもさることながら、ごく当たり前の日常を送る「普通のムスリム」の視点の重要性については共感を覚えた。

筆者は、サバ州の華文独立中学の歴史と現状を通してみたサバ華人社会についての報告“Chinese in Sabah and Nation-State in Malaysia”を行なった¹。サバ州の華人の実態についてほとんど知られていなかったためか、客家の多さや半島の華人との違いなど事実関係に関する質問や意見が多かったが、フロアにいらっしやったサバ大学社会科学学部カダザン研究主任 Jacqueline Pugh-Kitingan 助教授からサバ州のミッション系学校の果たした役割についての詳細なコメントがあり、筆者にとってとても有益なものとなった。



¹ 日本人参加者による他の報告は、Nishizaki Yoshinori (NUS) “The Legitimacy of the Patrimonial Democratic State: View from Provincial Thailand”のみであった。